

路面下空洞調査について

資料No.14

1 道路下の空洞化の発覚

令和8年2月末に町道吉浜56号線（白沼田バス停付近）で、道路下のマンホールと接続する雨水管周辺で1m×1m×深さ0.5m程度の空洞が発覚しました。当該地付近では、昨年の道路舗装工事の際に、道路下で空洞が見られ、補修いたしました。

その後、当該地付近の周辺を広く空洞について調査しましたが、空洞の広がりはあるものの、大きなものではなく、復旧工事を行っております。

今回の原因は、道路を横断方向に通る雨水管付近での事象であり、目視点検レベルでは、雨水管の損傷から雨水の流出があったものと想定されます。

2 周辺路線での路面下空洞調査

今回の道路下での空洞化が発覚したことを機に、3月に当路線の南側に向けて（延長約1km）について、路面下空洞調査を実施しました。

調査結果としては、4ヶ所で空洞が発覚しました。これらについては、現地状況を確認しつつ、復旧します。

3 今後の進め方

空洞化が頻繁に発覚したこと、路面陥没が生じた場合には町民生活に大きな影響を及ぼすことをふまえ、主要道路において路面下空洞調査を実施します。

令和8年度は、重要路線（バス道路など）で緊急調査し、令和9、10年度は主要道路において順次調査します。

＜参考＞ 調査方法

路面下空洞探査車（車載型地中レーダ）を用いて、走行しながら連続的にレーダ探査測定を行い、解析に必要なレーダデータ・周辺映像・GPSによる位置情報・路面映像を取得する。

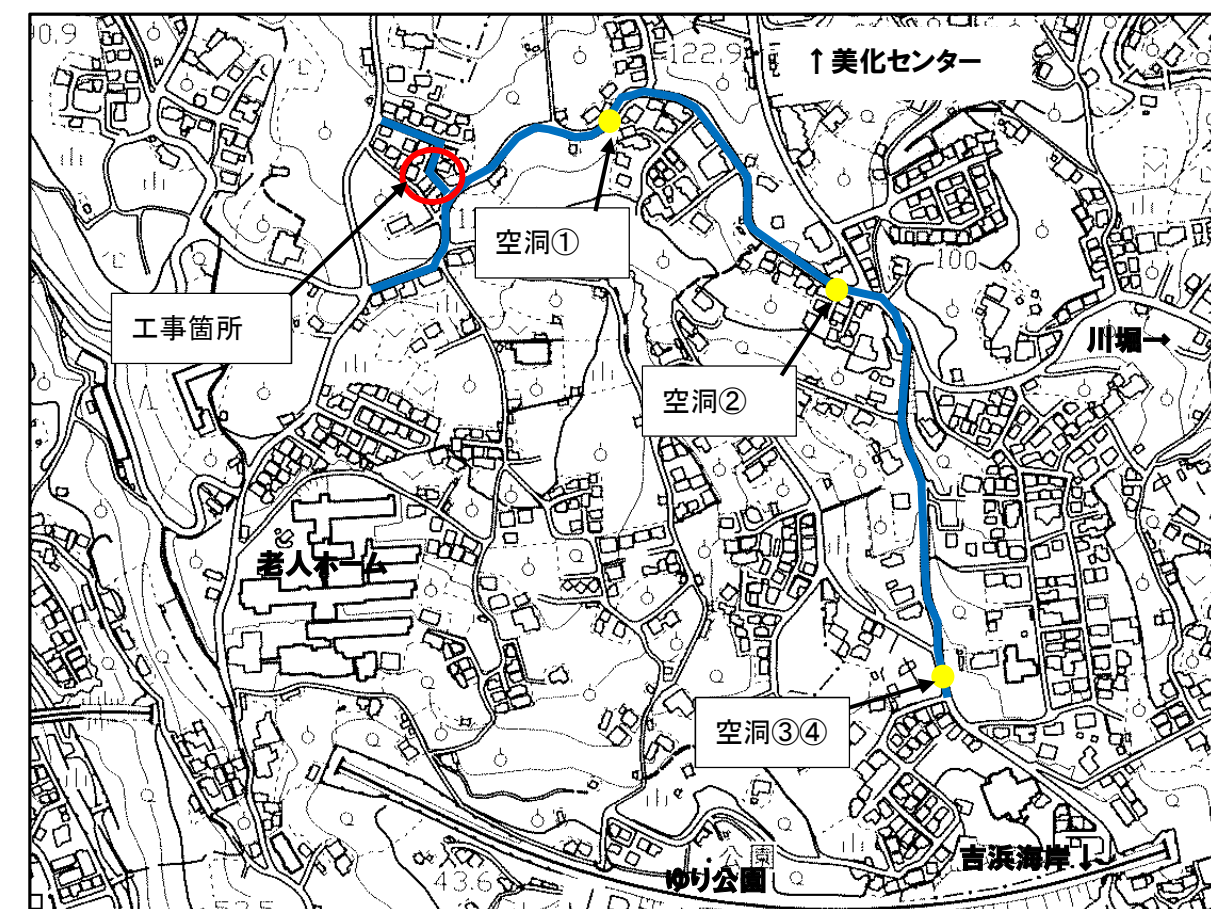
探査深度：1.5m

探査幅：1.6m（一走行）

探査能力：縦50cm、横50cm、厚さ10cm以上の空洞を検出

空洞が検出された場合は損傷状況、路線の重要度等から優先順位を判断し、順次修繕を行います。

空洞確認箇所



工事箇所

